

校友會雑誌第二號

本校創立四十週年の回顧

林茂生

本年は、我様が明治十八年（西紀一八八五年）に嘸々の聲を擧げてから、恰度滿四十年を経過した年に相當します。時の長短に対する觀念は本來相對的にして、主觀的でありますので、人の短い一生に對して四十歳と云へば、相當の年ではありますか無限に生きんとする學校は、其の齡が四十歳になりても、未だ赤坊の感を拂ひません。併し此の四十歳の赤坊の未來を大に祝福せんが爲めに、その依りて以て育てられて來た過去を追憶し、現在を省み、將來の理想を畫くのは決して無意義の業ではないと信じます。

さて、我校四十年の歴史を回顧すれば、説明の便宜上、大凡左の三期に分けて考へることが出來やうと思ひます。即ち

第一期、明治十八年（西紀一八八五年）より同三十八年（同一九〇五年）まで

第二期、明治三十九年（西紀一九〇六年）より大正四年（西紀一九一五年）まで

第三期、大正五年（西紀一九一六年）より同十四年（西紀一九二五年）まで

之等は、各時代の變遷發達の過程を辿つて考へて見やうと思ひます。

第一期は學校の草創時代で、其の傳統的精神たる宗教を育樹立の時代に屬します。従つて當時の教育方針は極めて簡單でありまして、優良なる神學生たるべき豫備教育を施す旁々基督教信者の子弟に適切なる聖書、聖文の傳承及び人生必須の科學的常識を授くるのが主なる目的でありました。茲に最も紀念すべき事など

は、開港と本島に於て算盤の代りに筆算を教へたり、地球は圓いもので、東から西へ進んで行つても又た東から歸るゝで來られると云ふ様な、今日から云へば、極めて平凡な通俗的な地文學の知識を、如何にも、もの珍重に取へたりする唯一、最初の學校は本校であつたことあります。それだけ本校は、本島に於ける西洋文學輸入の先駆者たる光榮を擔ふに適はしくありました。當時の生徒は、今日のそれとは違つて、信者の子弟ばかりではありませんでした。其の就學の目的も極めに簡單で、精神上の方面に志を有するものは大概神學校入學を第志願とし、物質的方面的成功を望むものは、新樓病院や彰化病院の醫務助手に選拔せられるのを登龍門と見つて居りました。蓋し此等の助手の中に、卒業後、當時頗る珍しがられて居た西洋醫術を業として、終に巨萬の富を作る人が少なくなかつた爲にも依るのであります。斯くて學校の教育方針も極めて具体的にして變化少く、生徒の學習目的も割合に簡單で、二十年間を経過しました。此は主として、學校が外部の事務に對して殆んど沒交渉であつた爲めに基因すると思ひます。一言にして云へば、此の時代は本校の治外法權時代でありました。時の政府との關係も一般社會との關係も殆んど沒交渉でありました。尙ほ細く云へば、前半期は清國政府の時代で、本校は英國々旗と共に文學通りの治外法權に置かれて居りました。後半期は帝國政府の時代には入りましたが、時の總督府は臺灣人教育方針を未だ確立せざりし爲め、私立學校に對する干涉や監督等の様な交渉も殆どなかつたので、時勢の要求とか、國民教育とか云ふ様な困難な問題等は勿論學校經營者の意識に上らなかつたと思ひます。簡單に云へば、此の時代は善き市民、善き國民を作れるよりも、善き信徒を作らうとするのが、時の學校當局の主なる努力でありました。(勿論、眞の善き生徒は必ず同時に善き市民であり、善き國民であるべきことは記者の信じて疑はない所であります)。斯くての如く第一期に於いて本校は外界との交渉なかりし爲めに方針や制度の上に比較的に變化少なく、同時に困難な問題も生じないで、専ら其の宗教々育の樹立に力を致すことが出來たわけであります。

然るに第二期に入りまして、時勢は終に本校の治外法權の狀態を許さなくなりました。此時期より本校は漸次時の政府や島内の教會と頻繁に交渉する時代に入ります。かの明治三十九年の教育令に依りて、本校が總督府の正式の認可を得たのは、抑々對政府交渉の端を開いたわけであります。併し此の交渉たるや、單な

る表面上監督を受くるに過ぎないで、一年一回の定期報告をなしたり、卒業式の時に地方長官の臨席を請ひた類する物のこと以外には依然として没交渉の状態でありました。本校が此の時代に於て外部の事情との交渉に依りて、内部の事情に變化を來らせたのは主として島内の教會との關係にあるのであります。即ち從来無條件で學校の施設に對して賛意を表して居つた教會が漸次教育的に覺醒し來り、遂に學校改革の聲を擧げるに至つたことであります。由來廿世紀の初頭は對岸支那の教育的に目覺めた時代であります。それまで單に宗教傳道上の一開業かの如くありし彼の地のミシシヨン、スクールは漸次純教育的のものにせんとして學科程度を高め、諸般の施設を整頓する趨勢を示して來ました。本島教會の信者達が本校に向つて學制を改し學科程度を高めることを要求するに至つたのは主として此の刺戟を受けたからであります。固より此の要求は宗教を無視するの意ではありません。唯だ從來の純宗教々育に代へて、基督教主義的教育を盛にせよと主要じたまでもあります。云ふまでもなく此等の教育に熱心なる信者は、深く教育の内容に立入りて研究した結果、斯かる主張を唱へたのではなく、唯だ漠然として、廈門や福州には英華書院の學校がありますから本島にもあつて欲しい、と云ふ様な者しか持たなかつた、従つて本校の學科程度を高めとは英華書院式にせよと云ふ意味であります。彼等は口癖に「中西學」と云つたのは此の英華書院を云ふのであります。然れども學校當局は二十年來の傳統的精神性による宗教教育主義を因持して居つた爲めか、容易に此等の要求に耳を貸さなかつたので、折角彼等の要求も始めは一向効用がなかつた様であります。ところが本島教會側よりの此の要求の聲、斥けられた爲に却つて益々大くなり要求する人も漸次多くなりまして、中には所謂中西學建築敷地を買つて學校に寄附せんと意氣込んで居るものさへありましたので、其の熱誠は終に長老中會を動かして、先づ新校舍建築費を募集の決議を成立せしめる様になりました。流石遲疑せざりし宣教師會も本島側の意氣に感じて島の事に贊意を表して建築基金の半分を英國側で負擔し進んで學校經營の最高會議とも云ふべき學務委員會なるものを組織して其の會員の半數を本島側の中會選出委員に割當てる程の雅量を示す様になりました。斯くて本島の教會は本校の學制改革を要求したのに端を開き、終に資金を投じて學校を援助し且つ其の經營管理に參加することになりました。従つて從來E.P.M.S.であつた本校はP.M.S.となり、而も前者のM

がミシシキンであつたのに引き替へて後者のMがミッドルとなり、名實共にアレスビテリアン、ミッドルスクール、即ち長老教會中學となつたわけで、從來英國母會の出店であつた如き觀を有する本校は漸次本島の學校たらんとする傾向を呈し來つたのは確かに本校歴史上、特筆大書すべき一大變化と云はなければなりません斯くして此れより本校は將に一新時代を現出せんとします。

上記建築基金に依て建てられた現校舎は大正五年の春竣工しました。本校は舊校舎より此に移り其の面目を一新し此れより第三期の新時代に入らんとしました。たゞに新校舎に依りて大に其の外觀を立派にされたばかりでなく、内容の充實も此れより新校長バント氏に依りて企てられました。従つて第三期は内容整頓の時代と云つてよい程に此の十ヶ年間は、専ら學科程度や教授内容の充實に力を致し、而も或る程度まで其の目的を達することを得ました。然れども此の内容充實の問題は外觀の整頓程しかく容易な業ではありません而もかかる重大な時期に際し、學校對外部の關係が益々複雜となるに連れ、種々になる意外の事情が起つた爲めに此の困難なる事業をして一層困難ならしめた次第であります。今繁を避けんが爲めその困難な點の主なるものを要約し列挙して見やう。

一、學科内容の充實を計らんが爲めには先づ良教師を得なければならぬ然るに大正八九年の好景氣に依りて、餘程の高い俸給を以てしなければ、優良なる教師は容易に求められません。従つて學校は其の爲めに財政難に陥ることになるが其の難點の一、

二、本校の入學生は主として公學校の卒業生から取るのであります、公學校の校長や教師の中に一部分無理解の人が居つて、直接間接生徒の本校入學を阻止するのが其の難點の二、

三、官立中等學校入學試験の競争が激烈なるに伴れ其の不合格者の多數が本校に入りし爲め一方に於ては本校をして豫備學校たらしめるとする危険を有すると共に中途退學者續出して、凡ての施設を困難ならしめるのが其の難點の三、

四、大正八年の新教育令の施行と共に本校卒業生は官立の高等普通と同様に島内の専門學校の入學資格を得られなかつたのが、其の難點の四、

但し後になつて醫專及び商專と内交渉をした結果終に入學受験資格を許されたが

五、大正十一年改正新教育令の施行と共に前項の問題は自然消滅となりましたが、尙ほ同令に依りて私立中學とならない中は依然として卒業生の専門學校入學資格は得られない困難が除去せられません。斯くの如く此の第三期の中に種々なる外部の事情に依りて生じた難點が多數存在して居りました爲めに、折角のバンド校長の抱負も思通りに行はれないで、今日に至りましたわざであります。併しながら上記の難點は決して何時までも存在するのではありません。吾々學校關係のもの其の校内の教師と校外の校友とを問はず此の際一大決心を以て此の明敏達識、信念堅固なるバンド校長を援助する意氣さへあれば必ず大正十四年の四十週年紀念日を機として更に本校の一新時代を劃するに至るであらうと信じます其の爲めには左記の如き計畫、實行、並びに心掛は肝心と思ひます。

一、昨年五月より本校後援會に依りて募集に着手した十萬圓の基本金は既に半數以上の豫約を得たが尙ほ一層校友有志の努力に依りて、本年中に其の豫定數に達して以て財政の基礎を固くして凡ての施設をして一層完済ならしむべき事。

二、有資格の教員を増聘して、文部省令に依れる私立中學の認定を申請すべきこと。

三、本校の傳統的精神性たる基督教主義的教育をして一層徹底せしむべきこと。

四、本校の如き特色ある學校の存在は、單に本島内に餘計に一中學校の存在を増加するのみならず之が本島に取りて是非なくてならぬものなりと云ふ信念を固持すべきこと。

五、本校は帝國憲法の保障を受けた信仰の自由を侵害されざる範圍内に於て出来る丈、國家の國民教育方針と歩調を一にして生徒の教養に勉むべきこと。

以上の如き計畫や理想を實行するなどを得ましたならば、前記の難點の大部分は自から除去されることが出来從つて校基の鞏固、將來の發展も期して俟つことが出來ます。

大凡一團體の發達過程は個人のそれと同じく、其の過ぎ去りし日の歴史を顧みれば順境逆境との循環の跡が辿られます。我が校四十年の歴史も其の通りで決して順境ばかりとは云へません。殊に第三期になつてか

ら實に多事の秋と云ふべきであります。而も我校が終に本島最古の中學として今日まで持續し來り、今後も益々榮光にて行かんとするのを思へば、誰か冥々の中の神の御業の偉大なるのに感泣し、且つ我校を創設した英國傳道本部を始め歴代の校長教師及び校友有志諸氏の貴き努力に謝意を表しないものがありませう。實に今秋舉行されんとする創立四十週年の紀念祭は同時に感謝祭でなければなりません。願くは今秋の紀念祭に於て學校關係者の溢るゝばかりの愛校の熱誠を表はす機會を逸せざらんことを切望して已まない次第であります。

青年の心得可き事

エドワード・バンド述
和字慶貞光譯

私は諸君に申上げんとして右の様な題を撰びましたが、要するに青年男女間の正しい關係について知らねばならぬ事を書き度いと思ふ丈けであります。この問題は困難な問題であり且つ亦非常に必要な問題であります。何故かと云ひますと多數の青年はこの問題を知らず、又この問題について解決に苦んで居ると信ずるからであります。

若い人達の解しにくい友情、戀愛、結婚並に性交に關する問題は澤山あります。人に依つては之を笑つたり又は戯談半分に言つたりします。大底の人は之を公然と論じることを恥しがります。然し私は多くの思慮ある青年は必ずこの大切な問題に就いて指導を求め、且つ是等の人生問題に關する溝く且つ深刻なる話を歡迎するものと信ずるものであります。

若し青年が彼等の尊敬する信用のある友達からこれ等の事に關して最初に聞かなければ、屹度つまらない人達からその話を聞かされると云ふ危険があります。その結果彼等の人生觀は全く損はれます。よくは存じませんが、この事については日本も英國と同様だと想像して居ります。下流社會の子供達は性的方面については極めて小さい時から覺えます。而して中流上流社會の若い人達はこの事に就いて知るのがお